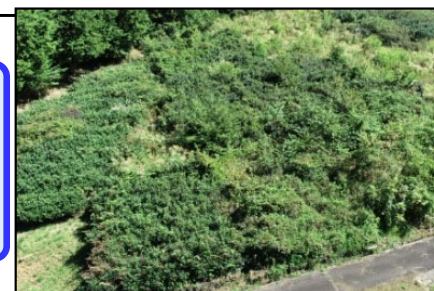


【地域の概要】

- 本町は総面積の約90%を山林が占めている中山間地域であり、地域計画上位置付けている農地面積はその約2%ほどである。全地区において農業者の減少と高齢化が進んでおり、特産である茶についても担い手の減少と茶園の荒廃が進行している。
- 各地区においては集落営農組織が組織されているが、組織内においても高齢化がすすんでおり、運営の継続が危惧される。一方、近年では有機農業を主とした新規就農者等の担い手が徐々に経営面積を広げており、地域内でのイベント開催、都市部への販売等を通して販路を確保しつつある。

①地域農業の課題

- ・ 担い手の高齢化と減少 ・ 新たな担い手の確保
- ・ 耕作放棄地、荒廃農地の増加による周辺農地への悪影響
- ・ 農地の基盤劣化



耕作放棄された茶園



有機農家・新規就農者らによるイベント

②地域計画策定にあたっての取り組み

○戦略会議（令和6年2月、5月、9月、令和7年1月）

農業委員会総会に合わせて農業委員、推進委員を対象に地域計画策定に向けた戦略会議を実施した。令和6年2月・5月には、委員による農業者の意向確認、農地の利用状況に関する調査を実施することを決定。9月には、各戦略会議間で行われた連携会議の結果を各地区ごとに共有し、計画案および目標地図案のブラッシュアップを行った。令和7年1月には、協議の場を経て作成された地域計画案、目標地図案の最終審査を実施した。

○連携会議（令和6年6月19日～6月28日）

町内5地区（白川・白川北・蘇原・黒川・佐見）に分かれて、地域農業の担い手（認定農業者・営農組合・集落協定等）、農業委員会、農林課で地域計画策定に向けた案内、地域農業の現状に関する情報を互いに共有した。また、目標地図素案を作成し、協議の場への足掛かりとした。

○協議の場（令和6年10月9日～令和6年11月7日）

連携会議の5地区をさらに細分化し、計8つの地域で地域農業の担い手（認定農業者・営農組合・集落協定等）、農業委員会、農林課、農協を参集した。連携会議にて作成した目標地図の素案をより細かく塗り分けし、目標地図案を作成した。

③課題と今後の展望

○地域計画策定で見た課題

- ・担い手の高齢化と減少は全地区共通の課題であり、農地の管理・耕作・保全についてもすぐに現状を打開するのは困難である。
- ・今まで担い手間の交流が少なく、互いの問題を共有する機会がなかった。
〈例〉有機農家と慣行農家、担い手（個人）と集落営農組織 など

○今後の展望

- 1.現状を打開することが困難であるからこそ、保全すべき農地を明確にすることが重要となる。
⇒所有者・耕作者の特定、適切な非農地判断、農振整備計画の見直し等
- 2.農業委員会は地域計画策定にあたっても基幹的役割を担っており、今後のブラッシュアップに向けても重要な役割を担う。

より実質的な地域計画とするためには、

- ・ 地域農業に関する状況把握 ・ 平時の農地パトロール ・ 担い手への経営農地斡旋
 - ・ 所有者不明農地や相続未登記農地への対処 ・ 適切な農地の貸借設定の促進（機構法貸借）
 - ・ 保全すべき農用地の明確化（適切な非農地判断・農振整備計画の見直し等）
- 等を積極的に行う必要がある。

3.農業委員会においては、農業者同士の話し合いを円滑に仲介する役割が期待されており、今回の協議の場においても農業委員を中心として話し合いをすすめる場面が多々あった。今後の協議の場では、この役割を発揮できるよう更に地域に関わっていく。

4.協議の場において「地域計画は単なる農業のみの計画だけでなく、地域観光等にも活かせるのではないか」という意見もあった。
総合的な計画としても機能しうるものであることを認識しながら、今後のブラッシュアップに取り組んでいく。



地域協議の場（上佐見地区）